

## 第6週 水曜日 早課 カノン

第1のカノン2調イオシフ作、第2のカノン3調フェオドル作

### 第3歌頌

我が心は主の中に堅められ、我が角は我が神に在りて高くなり、我が口は我が敵の上に開けたり、蓋我は爾の救の為に楽しむ。主の如く聖なる者あらず、蓋爾の外に他の者なし、我が神の如く堅固なる者あらず。復驕れる言を言ふ勿れ、狂妄をして爾の口より出でしむる勿れ、蓋主は睿智の神にして、行為は彼に権られたり。

十四段に、

強き者の弓は弱み、弱れる者は力を帯びたり。飽きたる者は糧の為に労働し、飢えたる者は息ふ。胎荒れたる者は七子を生子、多くの子ある者は衰ふ。主は殺し亦生かす、地獄に下し亦上す。主は貧しくし亦富ますも卑くし亦高くす。主は貧しき者を塵埃より起し、乏しき者を草芥より挙げて、之を牧伯と共に坐せしめ、光榮の位を嗣がしむ。

八段に、

イルモス「諸善を耕作し、諸徳を培養する神よ」(2調)

**彼は其聖者の足を守る、不法の者は幽暗の中に消ゆ。**

主よ、凶悪なる攻撃に由りて弱りたる吾が智慧を爾の十字架の力を以て堅めて、爾の旨に向かわしめ給へ。

**蓋人の力を持て堅固なるに非ず、主は之に敵する者を砕かん、主は聖なり。**

主よ、逸樂の牀に寝ぬる我を起こして、爾の苦しみに伏拝する者と為し給へ。

**智者は其の<sup>なか</sup>智を以て誇る勿れ、強き者は其の<sup>なか</sup>力を以て誇る勿れ、富む者は其の<sup>なか</sup>富を以て誇る勿れ。**

我等は靈照らされ、齋に由りて潔くなりて、往きて肉体を以てイエルサリムに来るハリストスを迎へん。

**誇らんと欲する者は主を悟りて彼を知り、且つ<sup>うち</sup>地の中に審判と義とを行ふを以て誇るべし。**

〔生神女讃詞〕神性の火に焚かれざりし潔き者よ、我が不潔なる諸慾を焚き給へ、我が熱心に爾潔き者を讃榮せん為なり。

イルモス「果を結ばざる子なき靈よ」(3調)

**主は天に<sup>のぼ</sup>りて轟<sup>とどろ</sup>けり、彼は義にして地の<sup>はて</sup>極を審判せん。**

今日死せしラザリはイイススの見ざるところなき目に隠れざりき。故に彼は門徒に之を言ひて呼ぶ、我等の友ラザリは寝ねたり、我往きて彼を復活せしめん。

**彼は力を以て其の王に賜ひ、其の<sup>あぶら</sup>膏<sup>つ</sup>つけられし者の角を高くせん。**

主よ、爾は又イウデヤに往かんと言ひて、者とを畏れしめたり、然れども、フォマは毅然として呼べり、彼は生命なり、我等も往かん、蓋死すとも復生きん。

**光榮は父と子と聖神<sup>に</sup>に帰す。**

〔聖三者讃詞〕一性なる三者、全能の父、同無原の子、同座の聖神、唯一に伏拝せらるる造られざる神性よ、我等衆人は爾を歌ふ。

**今も何時も世々に、「アミン」**

〔生神女讃詞〕至浄なる童貞女よ、イエッセイの根なる者よ、地に生まるる者に生を施す

花たるハリストスは爾より輝けり。潔き者よ、我等皆爾によりて、朽壞及び死より救はれて、爾を歌ふ。

**我等の神よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。**

シオンよ、慶べ、今溫柔なる爾の王は臨む、預言者の呼びしが如し。小驢<sup>わかきうさぎうま</sup>は肉体にて之に乗る、主、己の手に萬物を持ち、我等がその権能を歌ふ者を載す。

イルモス 3 調 「果を結ばざる子なき霊よ、栄たる果を獲て、楽しみて呼べ、神よ、我爾に縁りて堅められたり、主よ、爾の外に聖なるはなく、義なるはなし。」

第3歌頌



実を結ばざる たましいよ、栄たる果を得て、  
たのしみて呼べ かみよ、爾によって固められたり。  
主よ、爾の他に聖なるはなし 義なるはなし

小連禱

第8歌頌

主の悉くの造物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 主の諸天使と主の諸天は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 諸天の上に在る水と、主の萬軍は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 日と月と、天の星は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 雨と露と、諸の風は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

十四段に、

火と熱、寒と暑は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 露と霜、氷と厳寒は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 霰と雪、夜と晝は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 光と暗、電と雲は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 山と邱、地と地上の植物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 諸の泉と、海と河、鯨と凡そ水に泳ぐ者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

八段に、

イルモス 「昔シナイ山に於て棘の中に」。

天の諸<sup>もろもろ</sup>の位鳥、野獸と一切の家畜と主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、ハリストスよ、我が卑微なる霊の甚だしき放心の重き石を去り、我を無感覚の軀より起こして、爾を、言を讃栄せしめ給へ。

人の諸子は主を崇め讃めよ、イスラエリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、

前知者及び神よ、爾は慈憐の多きに因りて、爾の友の死を己の友に預言し、彼四日目の死者たる者を、爾の光栄の為に、墓より起こさんことを定め給へり。

**主の司祭等、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、**  
ハリストスよ、爾は木の果の食にて殺されたる者に不死を賜はんと欲して爾生命の樹たる主を木にて殺さんことを謀るイウデヤに復赴き給ふ。

**諸神<sup>たましい</sup>と諸聖人の靈<sup>けんび</sup>と、諸義人と心の謙卑なる者と主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、**

〔生神女讃詞〕。潔き童貞女よ、爾に於いて、悉く神の途<sup>みち</sup>は見られたり、彼は三の後に爾の貞潔を護りて、之を萬世に封ぜられたる者と為し給へり。

イルモス「無原なる父より世世の前に生れし神」。

**アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、**  
ハリストスの友たる死せしラザリは今日葬られ、マリヤ及びマルファと共に在る者は皆哭く。ハリストスは喜を以て彼に往き給ふ、人々に己が衆人の生命たるを示さん為なり。

**主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、**  
人々よ、橄欖山<sup>エレオン</sup>よりするが如く、慈恵の高きより諸徳の枝を伐り来たりて、ハリストスの見えずして我等に来るを迎へ、彼を崇め歌ひて、萬世に讃め揚げん。

**我等主なる父と子と聖神<sup>ほ</sup>とを崇め讃めん。**

〔聖三者讃詞〕三位の唯一者、父、子、及び生活の神<sup>ほ</sup>、唯一の神性、唯一の國よ、天使の軍は爾暮れざる光を讃榮す、我等地上の者も爾を崇め歌ひて、萬世に讃め揚ぐ。

**今も何時も世々に、「アミン」**

〔生神女讃詞〕至浄なる者よ、視よ、我等萬族は爾の大事を視て、爾を讃揚す、蓋爾は性に聲て萬有の造成主、神及び人なる者を生み給へり。故に我等爾を崇めて萬世に讃め揚ぐ。

**我等の神よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。**

我等も童子と共にハリストス神を迎へ、枝に易へて慈恵を心の祈祷の中に捧げ、梢を執りて呼ばん、「オサンナ」、主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

(詠) **我等主を讃め、崇め、伏し拝みて世々に歌ひ讃めん、**

(詠) イルモス 3調 「無原なる父より、世世の前に生まれし神、末の日に生神女に籍りて肉体を衣たる主を、完き人及び真の神として崇め歌ひ、萬世に讃め揚げよ。」

## 第8歌頌



我等神を<sup>ほ</sup>讃め<sup>あが</sup>崇め伏し拝みて 世世にうたーい<sup>ほ</sup>讃めん。

無原なるちちより 世々の<sup>き</sup>前に生まれしかみ

すえの日に 生神女によって 肉体を衣たる主を

全き人、および 真の<sup>かみ</sup>神として <sup>あが</sup>崇めうたい

萬世に 讃めーあげよ。 ヘルビムよりへ

ばん せい

司祭 生神女<sup>ほむらな</sup>光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

## 〔詠〕 [ヘルビムの歌]

第1句 我が心は主を崇め、我が<sup>たましい</sup>靈は神我が救主を悦ぶ。

〔附唱〕 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。



第1句 我が心は主を あがめ 我が靈は神我が救主を 喜こーぶ

附唱 ヘルビムより 尊とく セラフィムに並びなく さかえ 貞操を

破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあがめ讃む

第2句 その婢の卑しきを願<sup>かえり</sup>み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、<sup>よろずよ</sup>

→附唱 **ヘルビムより尊く**

第3句 権能ちからを持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の  
 憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん →附唱 **ヘルビムより尊く**

第4句 其の肘の力を表して、心の驕おごれるものを散らし給へり、→附唱 **ヘルビムより尊く**

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむ  
 なしく帰らせ給へり。 →附唱 **ヘルビムより尊く**

第6句 其の僕、イズライリを納いれて、我が先祖に告げしが如く、アウラアムと其の裔を  
 世世に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱 **ヘルビムより尊く**

**第9歌頌**

祝讀せらるる哉主、イズライリの神、蓋其民を眷みて之に購を為し、我等の為に救の  
 角を其僕ダワイドの家に興せり、古世より其聖なる預言者の口を以て言ひしが如し、  
 即我等を我が諸敵及び凡そ我等を悪む者の手より救ひ、

以て矜恤あわれみを我が先祖に施し、

八段に、

イルモス「童貞女が孕める者と現れて」。

其聖なる約すなわち 即 我が祖アウラアムちかに矢ひたる誓を記念せん、

ダニイルは齋に護られて、猛獣の口を閉ざせり。我が霊よ、之に效ひて、吼ゆる獅子  
 の如く、凡の霊を食と為さんと謀る蛇を十字架の助けを以て逐ひ斥けよ。

謂いふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼おそれなく、彼の前に在りて、聖を以て、義  
 を以て、生涯つか彼に事へしめんと。

神の言葉よ、諸罪に殺され、犯罪の枢に閉ざされたる我が霊を爾の生を施す言を以て  
 復活せしめて、爾死の勝利者に諸徳の枝を捧ぐるを獲しめ給へ。

子よ、爾も至上者の預言者と称へられん、蓋主の面前に行きて其の道を備へん、

神、父の言、天を宝座と為し、地を足のだい凳と為す主は小 驢わかきうさぎうま に乗せられて、聖なる  
 城に入り給ふ、萬有の王として嬰兒の口より嘉く納れらるる讚美を受けん為なり。

彼の民に、其救はすなわち 即 諸罪の赦ゆるし にして、我が神の矜恤あわれみ に因ることを知らしめん。

〔生神女讚詞〕嗚呼至りて奇妙なる潔き者よ、爾は獨女の中に美うるわしく、妝よそおはれて、衆人  
 より美うるわしき者と現れたる至りて美うるわしき言を生み給へり。童貞女よ、吾が心の汚を潔  
 めんことを彼に祈り給へ。

イルモス「モイセイはシナイ山に於て」。

此の矜恤あわれみに因りて、東旭あさひは上より我等に臨めり、

ラザリの姉妹は今日親族が石に掩はれたるを見て、葬りの涙を流す。然れども吾がハ  
 リストスは遠くありて之を使徒に語りて告げたり、我汝等の為に喜ぶ、蓋肉体にて彼  
 處に在らざりき。

幽暗くらやみと死の蔭かげとに坐する者を照し、我等の足を平安の道に向はしめん為なり。

兇殺者たるイウデヤよ、ハリストスは神として救を施す苦しみを受けんとして復爾に往く。爾が石を以て殺さんと謀りし者は、視よ、親ら爾より死を受けん為に來たる、我等を救はん為なり。

### 光榮は父と子と聖神<sup>o</sup>に歸す

〔聖三者讚詞〕神は唯一にして三者なり、嗚呼至榮なる真理や、性に於いて唯一にして分離せざる者は、位に於いて分れて、一なる者は三と為り給へり、是れ父と子と生活の神<sup>o</sup>、萬有を護り給ふ神なり。

### 今も何時も世々に、「アミン」

〔生神女讚詞〕。子を生む童貞女、又夫に與らざる母の事を誰か聞きたる、マリヤよ、爾は奇跡を行ひ給ふ、然れども是れ如何に我に言へ。我が神を生みし産の深きを窮むる勿れ、是の奧密は実に人の智慧に超ゆ。

### 我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

我等は棕櫚の枝を執り、内心と外形とを以て出でて、我等に來たる主宰を迎へん、蓋真の子として主及び父の名に因りて來たる者は祝福せらる。

イルモス 3調 「モイセイはシナイ山に於て棘の中に爾を焚かれずして神性の火を胎内に孕みし者として觀、ダニイルは爾を<sup>き</sup>截られざる山として觀、イサイヤは芽を<sup>きざ</sup>萌しし杖、ダヴィドの根より出でし者なりと呼べり。」

#### 第9歌頌

モイセイは シナイ山において、<sup>いばら</sup>棘のうちに  
神聖の火を胎内に はらみしものとして  
ダニイルは 爾を 切られざる やまと 見て  
イサイヤは芽をきざししつえ、ダヴィドの根より  
出でし者なりと 呼べり 常に福へ

常に福にして (6調)

小連禱